

# Koryu

栗東国際交流協会

〒520-3088

滋賀県栗東市安養寺1-13-33

TEL 077-551-0293 FAX 077-554-1123

URL <http://www.mediawars.ne.jp/~rittoing/>

E-MAIL [rittoing@mediawars.ne.jp](mailto:rittoing@mediawars.ne.jp)

編集 総務広報委員会

Ritto International Friendship Association

## 近江八幡市の歴史を訪ねて ～バスツアー～

文化事業委員会

### 第18回異文化交流サロン

10月13日(日)

長命寺 → 郷土資料館 → 歴史民俗博物館 → 旧西川家住宅 → 八幡堀 → 日牟礼八幡宮 →  
ロープウェイ ⇄ 市内展望



長命寺三重塔

標高286mの八幡山、1585年豊臣秀次がこの山に築いた城の城下町として町は発展しました。お堀の水面に立ち並ぶ蔵、その白壁がくっきり映っています。有名な近江商人はここのお堀から琵琶湖へ、そして海へとこぎ出しこの地に繁栄をもたらしました。今回は、水とともに栄えてきた町、近江八幡市を訪ねました。

先ず、聖徳太子が開いたという西国三十一番札所「長命寺」へ。八百八段の石段に皆へトへト?!実はバスで山頂手前まで登りました。

水蒸焼陶芸の里レストランでの昼食の後、ボランティアのガイドさんに案内されて資料館へ。重要文化財の旧西川

家住宅、屋敷の外から見越しの松を見ることができます。琵琶湖へとつながる八幡堀へ。そこからロープウェイで八幡山山頂の村雲御所瑞龍寺へ移動、近江八幡市を一望しました。

八幡堀から全国へと出た近江商人は豊表や呉服などを売り歩き、莫大な富を築きました。江戸時代初期には遠くベトナムにまで渡っていました。彼らは、買い手よし、売り手よし、世間よし、という三方よしの理念を商売の基本としています。八幡商人たちが残した財産は、形に残るものばかりでなく、むしろ、その精神に大きく価値があるといえます。正に異文化交流の原点をここに見ることができます。その意味で、たいへん意義深いツアーでした。(A.O.)



水蒸焼陶芸の里で昼食後にお買物



旧西川家住宅付近で「見越しの松」や「うだつ」の説明を聞く。



八幡堀で

八幡山から市内展望



9月24日から11月26日まで、10回シリーズで英会話講座2クラス開講。申込みは初級クラスではキャンセル待ちが出るほどの人気で、28人が受講しました。Ⅰのクラスではトラベル英会話で、外国旅行に出かけるには必携の講座、Ⅱのクラスでは、ビジネス英会話を楽しみました。NOVAグループから派遣されたオーストラリア人講師のゲリー・トンプソン先生はその明るいお人柄で、テキスト以外のコピーもたくさん用意して下さり、楽しい授業を展開して下さいました。1月14日から後期のクラスが始まります。お申込みまだの方、お急ぎください。



10月14日からは、韓国語自主講座が始まりました。講師は以前2回シリーズでお世話になった永田純子先生です。最近、韓国語を習いたい方が増えているようで、このクラスもまた、キャンセル待ちが出るほどの申込み状況でした。この講座は以前からお知らせしているように自主講座なので、一定数の受講生が希望するかぎり続行可能です。すでに受講生の間で楽しい催しも計画されているようです。新しく入られる方でも十分対応した指導が受けられますので、ご安心ください。ただし、今は定員15人満席で学習しておられますので、詳しくは事務局にお尋ねください。

## ペンシルベニア発 RIFA [3]

— ハロウィーン —

こちらに来る前は、ハロウィーンはパーティーをするために祝うホリデー（といっても学校もお休みではないけれど）だと思っていましたが、実はアメリカ人の中には祝わない、という人もたくさんいるみたいです。というのも、ハロウィーンは悪霊がでてきてさまよう夜、魔女や悪魔、がい骨などがモチーフになった飾りもたくさんあって、気にする人には「悪魔をたたえる祭り」と受け取られるようです。うちでは何よりも部屋の中にクモの巣をはったり、かぼちゃをくり抜いてちょうちんを作ったりといったことが、子ども達と一緒にすると思えば作りになるだろう、くらいの認識だったのでちょっと驚きました。でも霊がさまよう夜、というのは、あながちうそでは無かったようです…。



「良い魔女」に扮したメロディちゃん。くもの巣の後ろにはがい骨がいっぱい。

私達が家族ぐるみでお付き合いしているドナさんとビーリーさんの不思議な体験談。子どもたちがお菓子をもらいに廻った後に寝室で、他界したビーリーさんのおじいさんの話をしてしんみりしていたら、廊下を歩く足音が…。てっきり子ども達だろうと思って声をかけても返事が無い。ドアを開けても誰もいない。子ども達は地下室、彼らは2階の寝室です。怖くなったドナさんは神様にお祈りをしました。「悪霊でありませぬように。もし誰かいるならば存在を知らせてください」と言うと、今度はブラインドがガチャガチャガチャッ!と音をたてました。もちろん、窓は閉まっていました。来年からはハロウィーンはもうしないかも、と話してくれました。

我が家ではもうすでに来年のコスチュームを何にするか、と待ち遠しいくらいです。家族でテーマを決めて揃えようか、とも。こんな楽しいお祭りがコスチューム好きの日本にないなんて残念ですね。職場で頭から血を流したメークの人が、机に向かって仕事をしているなんて、1年に一回見られたら面白いと思いませんか？

[Noriko Rowe]

# 設立5年目を迎えて ～第3回RIFA会員の集い～

平成15年11月30日(日)

1999年5月にRIFA設立、今年5年目を迎えました。それぞれ得意な分野で活躍してくださっているRIFA会員相互の絆を深めようといはじめられた「RIFA会員の集い」も今年は「設立5年目を迎えて」と題し、少しフォーマルな集いを計画、手原駅前のお菓店商工会館で開催しました。

RIFA設立にあたり、またその後も4年間、会長、副会長としてRIFAに貢献頂きました猪飼光三郎氏、國松栄司氏に記念品を贈呈しました。

今年1月に栗東市政府使節団の1員として中国衡陽市を訪問された太田正雄さんが、スクリーンに映し出してその報告をされました。同行の使節団員さんと昨年12月の衡陽市への友好使節団員の方々も集まって、楽しく懐かしい思い出を語り合いました。衡陽市の皆さんにお見せしたいような風景でした。

RIFA会員で交流事業委員もつとめてくださっている奥村敏子さんは、幅広く活躍されているキーボード奏者です。滋賀県出身の新進フルーティストのお二人と共に、快い音楽で「集い」を盛り上げてくださいました。

栗東にお住まいの中国人中村さん、大津にお住まいの残留孤児の大槻さんも参加、楽しんでいただきましたが、北京付近から来られたお二人には衡陽市の中国語が、自分たちの中国語とはずいぶん違っていると話してくれました。



記念品贈呈



衡陽市でのレセプションがスクリーンに映し出される



中村さんと大槻さんにインタビュー



琵琶湖周原の歌を合奏



ユーモラスに使節団報告をする太田さん



フルートのやさしい調べ



奥村敏子さんの楽しい演奏